

## 審査の結果の要旨

氏名 王 帥

高等教育における奨学金の効果を明らかにするには、奨学金政策の背景と意図のみならず実際の運用と受給者の学習等の学生生活の実態双方を把握する必要がある。本論文は中国の高等教育の奨学金政策について、高等教育の拡大を支えた地方部に焦点を当て、奨学金の申請から採択がどのような過程で行われているか及び学生の勉学・生活面への影響を独自調査により明らかにしようとしたものである。

序章では、中国の奨学金に関する先行研究を概観し、機会均等と教育効果の両面を政策意図とすること、実証研究、特に地方部の研究が欠如していることが示されている。第1章では、奨学金制度の変遷を整理し、高等教育拡大に伴い多様な奨学金制度が生まれていることを述べる。また、奨学金の申請から受給に至る過程を明らかにしている。奨学金のうち代表的な給付奨学金と貸与奨学金に焦点を当て、前者は大学在学中の成績に基づき給付者が選抜され入学後に決定されるのに対し、後者は入学前に利用が決定されるという違いを示す。

第2章では、地方部の河北省A市における高校生の進路選択と奨学金の認知・利用の関係につき高校生調査を用いて分析している。その結果、貸与奨学金の利用希望及び認知度とも低いことが明らかにされる。また、進学先選定（よりランクが高い大学への進路希望）に貸与奨学金が家計困難かつ成績優秀な高校生に有意な影響を与えていることが示される。

第3章では、同市所在の大学（国立と私立の一種である独立学院各1校）在学中の奨学金の受給につき大学生調査を用いて分析している。給付奨学金については成績と家計所得を基準とする原則に概ね一致した採択がなされている一方、貸与奨学金については、家計困難な学生に利用されているものの、その利用率は国立大学及び独立学院とも低いこと、特に独立学院での利用が低調なことが示される。

第4章では、上記大学生調査に基づき奨学金の学生生活に与える効果について分析される。給付奨学金のうち成績基準のものは学習環境の改善に寄与しているものの、家計所得を基準とするものは受給額が少ないこともあり学生生活の改善になっていないことを示す。また、貸与奨学金については家計負担の軽減に寄与しているものの、学生生活の改善、特に学習時間の確保には効果がないことを明らかにしている。

第5章では奨学金政策について総括的検証を行い、給付奨学金は成績上位で家計所得が低い学生には学生生活の安定化に寄与しているものの、奨学金の給付水準が低いため高授業料による経済負担を軽減する目的は達成していないとする。また、貸与奨学金は高授業料の一時負担を賄い教育機会の均等を図る点で効果はあるが、学生生活の安定・充実には意図した効果を発揮していないことを示している。終章では、地方部の大学に対する奨学金政策の充実が機会均等と教育効果の向上に不可欠という政策含意を示している。

本研究は、中国における奨学金政策の実際の運用と効果を、地方部の教育機関の生徒・学生に対する調査に基づき、大学の設置形態別及び奨学金の種類別に明らかにした点で、特に意義が認められる。よって、本論文は、博士（教育学）の学位を授与するに相応しいものと判断された。